

令和5年度第2回大学リーグやまぐち全体会議 議事録

1 日時等

日 時：令和6年3月26日（火）14時～15時

場 所：県庁4階 正庁会議室

2 議 事

<第1号議案：令和6年度事業計画（案）及び収支予算（案）>

◇ 事務局

- ・ 令和6年度事業計画（案）及び収支予算（案）について、事務局から御説明させていただきます。
- ・ まず、会議資料1の6ページ、大学リーグの取組の全体像です。
- ・ 県内高等教育機関が、県内企業と連携して行う人材育成の取組を、大学リーグが支援することにより、県内進学及び県内就職を促進することが目的です。
- ・ 次に7ページ、8ページですが、こちらは、部会ごとの令和6年度の実業計画をまとめた表です。
- ・ まず、全部会共通の実業として、大学リーグやまぐち人材育成協力パートナーの募集です。
- ・ 次に、県内進学・魅力向上部会ですが、主な実業として、県内進学・仕事魅力発信フェア、県内進学ガイドブックやオープンキャンパスマップの作成、キャリア教育支援実業、県内進学・魅力向上に関する学生意見交換会などを予定しております。
- ・ 次に、県内就職部会ですが、主な実業として、山口きらめき企業の魅力発見フェア、ガクセイ社会科見学、分野特化型企業交流会の開催、キャリア教育支援実業、学生参加型企業PR動画の作成などを予定しております。
- ・ 最後に、地域貢献部会ですが、主な実業として、PBL実施支援、共同研究実施支援、先端技術を有する県内企業訪問バスツアー、地域が求める人材育成ワーキングの開催などを予定しております。
- ・ 9ページからは、令和6年度の新規実業について、御紹介させていただきます。
- ・ まず、大学リーグやまぐち人材育成協力パートナーの募集についてです。
- ・ 今年度、人材育成ワーキングにおいて、企業ヒアリングを実施したところ、大学リーグの取組へ県内企業の意見の反映や、大学リーグの取組について企業側へ積極的に発信してほしい、などの御意見をいただいたところでは。
- ・ これらを受けまして、高等教育機関と県内企業とが、大学リーグを通じて、双方向にやりとりができるようなスキームとして、「大学リーグやまぐち人材育成協力パートナー」制度の創設を提案させていただきます。

- ・ 10ページをご覧ください。
- ・ まず、大学等から県内企業へのアプローチとして、大学リーグの趣旨に賛同いただける企業様をパートナー企業としてリスト化します。
- ・ このリストを大学リーグ会員校において共有し、大学から県内企業への周知や協力依頼に活用させていただきます。
- ・ 次に、県内企業から大学等へのアプローチとして、パートナー企業様から所定のフォームにより、相談等を受け付けます。
- ・ 受け付けた相談は、事務局において、アドバイザーからも意見をいただきながら、大学側へ繋げていく仕組みとなります。
- ・ 来年度、アドバイザーと協力しながら、改めて、県内企業の皆様に募集の御依頼をさせていただくこととなりますので、その際には、是非、御協力をお願いいたします。
- ・ 11ページをご覧ください。
- ・ 県内進学・魅力向上部会の新規事業として、県内進学・魅力向上に関する学生意見交換会の開催を予定しています。
- ・ 県内大学に進学した学生を集めて意見交換会を開催し、学生目線での県内進学の促進に係るアイデアを発掘したいと考えています。
- ・ 意見交換会の内容を記事にしまして、進学ガイドブックに掲載する等により、高校生にも発信をする予定です。
- ・ 次に、県内就職部会の新規事業として、学生参加型企業PR動画の作成です。
- ・ 県内企業と学生が協力して、学生目線での企業PR動画を作成し、完成した動画を、SNSや就職イベント等で発信する予定です。
- ・ これらの取組により、より一層の県内進学、県内就職の促進を図ってまいります。
- ・ 12ページをご覧ください。
- ・ 地域貢献部会の新規事業として、先端技術を有する県内企業訪問バスツアーを計画しています。
- ・ 大学のゼミ単位等で、先端技術を有する県内企業を訪問し、技術者との座談会や大学シーズの紹介といった双方向の交流を行うことで、共同研究の実施に向けた大学と企業の関係づくりや、教員・院生・学部生への意識づけに繋がりたいと考えています。
- ・ その結果として、企業への就職に繋げることも視野に入れた取組となっております。
- ・ 13ページをご覧ください。
- ・ 令和6年度の収支予算案です。
- ・ まず、収入の部ですが、前年度繰越額が43万333円、事業収入が2,704万円で、内訳が県からの補助金2,650万円、進学ガイドブック等の負担金

が 54 万円となっております。

- 次が雑収入、これは預金利息ですが、100 円となっております。
- 次に、支出の部ですが、まず、管理費が 8 万 5,000 円で、内訳が、全国大学コンソーシアム協議会の会費が 3 万円、消耗品費が 3 万円、雑費が 2 万円、通信運搬費が 5,000 円となっております。
- 次に、事業費が 2,708 万 8,000 円で、内訳が、アドバイザーの配置等に係る委託料が 2,343 万 2,000 円、データサイエンス共通教材作成やキャリア教育支援事業といった負担金補助が 252 万 8,000 円、県内進学ガイドブック等に係る印刷製本費が 112 万 8,000 円となっております。
- 予算規模全体として、2,747 万 433 円となっており、前年度から 43 万 2,929 円の増額となります。
- 事務局からの説明は以上です。

(質疑なし)

3 報告事項

<山口県の産業界が求める人材像について>

◇ 山口県立大学（吉村副学長）

- ・ 会議資料1の14ページをご覧ください。
- ・ 山口県立大学副学長の吉村です。
- ・ 地域が求める人材育成ワーキンググループにおいて、山口県立大学がリーダー校を務めている関係から、私から、山口県の産業界が求める人材像について、報告させていただきます。
- ・ 会議資料の15ページをご覧ください。
- ・ 昨年1月に企業アンケートを実施、また、7月～今年の1月にかけて企業ヒアリングを実施しております。
- ・ その結果をもとに、ワーキンググループで議論を重ね、その結果を本日、全体会議に報告させていただきます。
- ・ 今後は、各高等教育機関における教育プログラムへの反映や、大学リーグやまぐちの取組への反映を行い、山口県の産業界が求める人材の育成・輩出を目指すこととなります。
- ・ 16ページをご覧ください。
- ・ ここからは、「山口県の産業界が求める人材像」についての概要を御紹介させていただきます。
- ・ まず、県内企業における大卒人材の採用動向のうち、近年の採用実績についてです。
- ・ いずれの業種においても、従業員規模が小さくなるほど、希望どおりの採用ができていない状況です。
- ・ 大卒人材の採用が見込めない企業では、社会人経験者や外国人材の採用を開始しているところもあります。
- ・ 次に、今後の採用見込です。
- ・ いずれの業種においても、大卒人材の採用意欲は非常に強い状況です。
- ・ 次に、企業における採用活動です。
- ・ インターネットサイトへの求人情報の掲載や、インターンシップの受け入れといった従来の採用活動のほか、ダイレクトリクルーティングなど、新しい採用活動が広がっています。
- ・ 就職売り手市場の中で、より費用対効果の高い採用活動を模索している状況です。
- ・ 17ページをご覧ください。
- ・ 「山口県の産業界が求める人材像」です。
- ・ 資質・能力・知識の3つの要素に分けて、それぞれ提示させていただきます。
- ・ 資質としては、「円滑な人間関係の要となるとともに、様々な業務に対して主体的に取り組むことのできる人材」

- ・ 能力としては、「自ら課題を発見し、解決への道筋を論理的に思考できる人材」
- ・ 知識としては、「社会人としての幅広い知識・教養及びデジタルの基礎知識を備えた人材」
- ・ 以上の3つの要素を核として身に付けさせた上で、高等教育機関自らの特色・強みを活かした教育プログラムを提供することとしています。
- ・ 18ページをご覧ください。
- ・ 産業界が求める人材を育成するために必要な教育です。
- ・ まず、PBLです。
- ・ PBLでは、学生の課題設定力、課題解決力、論理的思考力、コミュニケーション力を始めとして、非常に多様な能力を養うことができます。
- ・ また、企業と連携して行うことから、キャリア教育としての側面も有しております。
- ・ 次にキャリア教育です。
- ・ キャリア教育により、学んだ知識を実社会に還元する具体的なイメージを持つことができ、社会人として必要な幅広い知識・教養も身に付けることができます。
- ・ 3つ目がデジタル技術の基礎教育です。
- ・ 県内企業や自治体においてデジタル技術の導入が進められていることから、デジタル技術の基礎教育を身に付けた人材の採用が、喫緊の課題となっています。
- ・ 19ページをご覧ください。
- ・ まず、大学リーグやまぐちに期待する支援についてです。
- ・ 県内企業と学生とを繋ぐハブとしての役割、大学リーグの取組への県内企業の意見の反映、大学リーグの取組の積極的な情報発信、などが求められています。
- ・ 県内の高等教育機関においては、既に、地域や時代のニーズに沿った人材育成の取組が進められています。
- ・ これらの取組を支援・共有しながら、「山口県の産業界が求める人材像」に沿った人材の育成に向けて、大学リーグの会員が協働して取り組み、人材の好循環を創り出すことに期待する、としています。
- ・ ここまで、山口県の産業界が求める人材像の概要について、非常に簡単ですが、説明をさせていただきました。
- ・ 本日は、アンケートやヒアリングの結果も含めた、実際の資料を配布させていただいておりますので、是非、内容をご覧ください、参考としていただければと思います。

(質疑なし)

<大学リーグやまぐちの数値目標について>

◇ 事務局

- 大学リーグやまぐちの数値目標の設定について、事務局から説明をさせていただきます。
- 会議資料1の21ページをご覧ください。
- 昨年3月の全体会議において、事務局から、大学リーグやまぐちの取組の進捗把握や効果検証のため、各部会での数値目標の設定について、御提案させていただきました。
- その後、各部会において、数値目標を検討・設定いただきましたので、本日の全体会議で、その結果を、事務局からまとめて報告させていただきます。
- 22ページをご覧ください。
- まず、県内進学・魅力向上部会の数値目標です。
- 県内高校出身者比率の現状ですが、直近の令和5年度が、大学・短大・高専の合計で、37.5%となっております。
- この数値を、今後5年間で10ポイントアップさせ、47.5%とすることを、数値目標とされています。
- この数値目標は、過去の傾向から見ても、非常に高い目標と考えられますが、急速な少子化の進行等、昨今の高等教育機関をとりまく状況を踏まえれば、大学リーグの県内進学を取組をより一層加速させる必要があることから、より意欲的な数値を設定いただいたものと認識しています。
- 23ページをご覧ください。
- 次に、県内就職部会の数値目標です。
- 県内就職率の現状ですが、直近の令和4年度が、大学・短大・高専の合計で、32.5%となっております。
- この数値を、今後5年間で10ポイントアップさせ、42.5%とすることを、数値目標としています。
- こちらの数値目標も、非常に高い目標となっておりますが、急速に人口減少が進行する本県においては、県内企業への就職者数の増加が喫緊の課題の一つであり、大学リーグの県内就職を取組をより一層加速させる観点から、より意欲的な数値を設定いただいたものと認識しています。
- 24ページをご覧ください。
- 最後に、地域貢献部会の数値目標です。
- PBLの取組状況の現状ですが、令和4年度で、PBLを実施している学校が11校、うち山口県版PBLを実施している学校が6校となっております。
- また、PBLの実施件数は119件、うち山口県版PBLは52件となっております。
- 数値目標として、5年後の令和9年度に、県内全ての高等教育機関にお

いてPBLの取組を推進することとし、年間のPBLの実施件数を160件、うち山口県版を80件とすることを数値目標としています。

- 以上、各部会で設定いただいた数値目標について、御紹介させていただきました。
- いずれも高い数値目標となっており、目標の達成に向けては、大学リーグの会員の皆様の御支援・御協力が欠かせないものと考えますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。
- 事務局からの説明は以上です。

(質疑なし)

<地域連携プラットフォームについて>

◇ 山口大学（進士副学長）

- ・ 会議資料3をご覧ください。
- ・ 概念図でお示ししているように、地域連携プラットフォームは、公・産・学・金、それぞれが持ち寄った課題のうち、地域として取り組むべき課題について推進会議で議論した上で、全体会議で決定し、テーマごとに実行部門で進めていく、というような構成で一昨年から始めたものです。
- ・ まず、山口市の「やまぐち地域共創プラットフォーム」ですが、地方公共団体として山口市、産業界として山口商工会議所、金融機関として山口銀行山口支店、大学等として山口県立大学、山口学芸大学、山口大学で構成しております。
- ・ 課題としては、山口市の将来計画の方向性を踏まえ、市の人口減少や少子高齢化の進展、人生100年時代が到来する中でのウェルビーイングをどう考えるか、というようなものがあります。
- ・ 具体的には、「①人材育成・全員活躍」「②定住実現・雇用創出」「③にぎわい・交流創出」といった3つの重点課題があります。
- ・ ①と②に関連して、「部活動地域移行ワーキング」を立ち上げ、市が実施する部活動の地域移行が円滑に進むよう、市内3大学がどのように支援できるか等を議論しております。
- ・ ②と③に関連して、「にぎわい創出ワーキング」を立ち上げ、市の中心商店街のにぎわい創出に関して関係者がどう関わられるのか議論をしております。
- ・ 次に、宇部市の「うべ・未来共創プラットフォーム」についてです。
- ・ 宇部市の「共存共栄・協同一致」の理念のもと、宇部市、宇部商工会議所、山口銀行宇部支店、宇部フロンティア大学、宇部高専、山口大学で地域連携プラットフォームを構成しております。
- ・ こちらも「①中心市街地活性化」「②市民の健康増進」「③地元企業の魅力発信・若者定着」の3つの重点課題がありまして、これに対して2つのワーキングを立ち上げました。
- ・ まず、「認知症予防・認知症との共生ワーキング」では、認知症との共生に向けた正しい知識の普及・啓発や予防に関する取組を行っているところです。
- ・ 次に、「中心市街地活性化ワーキング」では、市の中心市街地に学生が訪問して何ができるかを具体的に議論しているところです。
- ・ いずれのプラットフォームにおいても、にぎわい創出がテーマとなっており、県全体としても考えていかなければならないテーマだと考えております。
- ・ 課題を解決する手法としてはPBLがありますが、学生が単位を貰っただけで満足しないよりよいPBLとなるよう、それぞれのワーキングの中

で議論をしていきたいと考えています。

- 学生がPBLで発見したテーマを、産業界や金融機関から支援をいただきながら、より有効なものに膨らませていく、これが地域連携プラットフォームの役割だと考えております。
- 今は山口市と宇部市のみですが、県内には他にも公立大学がある自治体がありますし、それぞれのプラットフォームが連携しながら県全体の課題を解決していくということも、これから大学リーグやまぐちにも求められることと考えております。

(質疑なし)

<地域活性化人材育成事業～SPARC～について>

◇ 山口大学（進士副学長）

- ・ 会議資料4をご覧ください。
- ・ スパークについては、この会議でも何度かご紹介しているところですが、県内3大学が大学等連携推進法人を立ち上げて、「文系DX人材」の育成を進めていく、というものです。
- ・ まず3大学がそれぞれ時間割が異なるので、そこをどうあわせるか、ということから始まって、実際にどのような授業科目をどういう手法で実施するのか、ということや、授業の共同開設に係る教員の負担をどのように軽減するのか、ということなどを議論しているところです。
- ・ また、山口県の産業界がどのような人材を要求しているのか、といったことを大学リーグからも報告いただきながら、それに合わせたカリキュラムの検討も進めています。
- ・ そういった中で、山口大学は何をするのか、ということの御紹介ですが、本日は読売新聞に掲載した広告をお配りしています。
- ・ 山口大学では新しい教育課程「ひと・まち未来共創学環」を設置することとなります。
- ・ 学部ではなくて学環を作るのですが、これは、それぞれの学部の教育リソースを使って新しい教育プログラムを作成し、環の中で学生を教育し、ひととまちと未来に役に立つ、共創できる人材を育成していく、というものです。
- ・ 具体的には、ひとやまちの課題を見出して、デジタル技術でそれをどう解決するのか、ということをも身に付けていく、文系DX人材をさらにつきつめていくような人材を作っていきます。
- ・ 最後のページにあるとおり、2025年4月に山口大学に学環をつくりまして、心理・行動科学分野と社会学、経営・経済学分野の2つの分野をデータサイエンス・デジタル技術で結ぶような教育環境を作って、人材を輩出していきます。
- ・ 卒業後の進路として、民間企業には、人事・企画・マーケティング・健康経営に関する各部門など、地方自治体には、統計部門・政策企画部門・心理専門職などを想定しています。
- ・ もう一つ、A4のチラシをご覧くださいまして、今年の7月27日に開催するSPARCのシンポジウムについてですが、ウェルビーイングをテーマに講演をいただきますので、是非ご参加のほど、よろしくお願ひします。

(質疑なし)

<デザインコンペ2023について>

◇ 山口学芸大学（岡村副学長）

- デザインコンペのチラシをご覧ください。
- 一番裏のページですが、今年度は全国から48点の作品をご応募いただきました。その中から厳正な審査の結果、優秀作品を選定させていただきました。この間、関係企業様にもご協力いただきましたことに、感謝申し上げます。
- ただ残念な御報告ですが、デザインコンペについては、本学の事情もありまして、今年度をもって終了となります。ご理解、ご協力ありがとうございました。
- 簡単ではございますが、以上です。

（質疑なし）

4 意見交換

◇ 山口県専修学校各種学校協会（関谷会長）

- ・ 県内進学・仕事魅力発信フェアの第1回目から実行委員長をさせていただいております。
- ・ 山口県の大学・短大・専門学校と各企業が共同開催して、約2,000人の高校生が参加いただいております、全国からも成功事例として注目いただいているイベントだと思っています。
- ・ 私の印象としては、多くの私立高校が参加いただく一方で、公立高校の参加が少ない年が結構あります。
- ・ 知事が、県内で学べるものは県内で学んで、県内で活躍していく、という流れを作っていくと一生懸命取り組まれている中で、公立高校の参加が少ないのは如何かと思います。
- ・ 過去には、県内のフェアに参加せずに県外のフェアに参加している、という例もありましたが、それはおかしいのではないかと申し上げたことがあります。
- ・ 公立高校の先生方にも、県内で活躍する人材を作っていく、ということ、是非、どこかの機会でお伝えいただければと思います。

◇ 山口大学（進士副学長）

- ・ 県内就職部会では、県内就職率を5年間で10ポイント向上させるという数値目標を置かせていただきました。
- ・ これまでも色々な取組みを頑張ってきましたが、数値目標を達成するためには従来の取組を繰り返していてもしょうがない、参加する大学それぞれが知恵を絞らないといけないと考えます。
- ・ また、まずは県内生が県内の大学に進学していただかないとどうしようもないので、進学部会にも（県内進学率の）10ポイント向上を頑張りたいと思います。
- ・ ただ、県内進学率が10ポイントあがったとしても、その効果が県内就職に現れるのは4年後になりますので、それを待っては県内就職率はすぐには増えません。
- ・ そのため、県内就職部会としても何かの手を打たないといけないのですが、我々も知恵を出しますので、県にも是非、御支援をいただきたいと考えております。

◇ 特別顧問（村岡知事）

- ・ 御議論をいただきありがとうございます。
- ・ コロナが明けてからずいぶん少子化も進んでおり、また、県外への転出の超過も大幅に増えているという状況にあります。
- ・ 中国地方の中では山口県は頑張っている方ではございますが、全国的に

首都圏等への転出が進んでいるという状況にあります。

- 一方で、企業も人手不足ということで、事業活動も思うようにできない、伸ばすどころか維持も中々難しいという状況です。
- これは少子化も相まって、さらに転出超過が追い打ちをかけるという状況で、経営者の方々からも、人材の確保に非常に苦労されているということはこの1～2年で切実に伺っております。
- 私のあいさつの中でも申し上げましたが、奨学金返還制度を設けた県内企業に対する支援であったり、県内企業の就職フェアの促進も行うこととしております。
- それから、若者にアンケートをとらせていただくと、まだまだ県内の企業の魅力を知らない、伝わっていないという状況でして、ここはもう少し工夫をしていかなければいけないところであります。
- 今回、学生目線で企業を紹介するイベントに対して県が支援をする事業を新しく設けておりまして、県内企業について学生が知りたい情報を知ることができる仕組みを組み立てていければと思います。
- まずは新年度の事業をしっかりと活用していただきながら、また、その先の展開に向けて、皆様からも知恵をいただきながら進めてまいりたいと思います。

◇ 山口学芸大学（岡村副学長）

- 今、知事からも県内進学・県内就職について、お話をいただいたところですが、令和5年度の本学における県内進学率は、山口学芸大学では90%、山口芸術短期大学では92%、また、県内就職率は、山口学芸大学では約86%、山口芸術短期大学では約96%となっています。ただ、私立大学の状況は、高校の生徒数の減少もあって、厳しい状況です。
- 知事の御説明にあったような奨学金返還制度など県の支援は非常にありがたいと思います。
- なお、私立大学は国公立大学にはない強みもありまして、この力を使わない手はないと思います。
- スパーク（地域活性化人材育成事業）においても、全国初めて国公立大学の連携ということで、文科省もこの行く末に注目して見ていると思います。
- この事業以後も、その成果を県内大学に広げていくという計画もありますので、その中で県内進学・県内就職にも取り組んでいきたいと考えております。